

(テーマ) 図書館のPR実践  
乙骨 敏夫(埼玉県立熊谷図書館)

## 「困難な時代」における図書館のPRについて

### 1. 「困難な時代」とは

#### A. 本が読まれない時代

- 堅い本が売れない/大学生が本を読まない
- 教養からファッション、そして反知性主義へ
- ブラウジングの衰退

⇒ 出口支援の強調から、入口支援の復権へ

#### B. 施設が使われない時代

- 非来館型サービスの浸透
- 単純なコンテンツでは人を呼べない
- 書店に学ぶ

⇒ 企画展型・ライブ会場型図書館の運営へ

#### C. 専門家が信頼されない時代

- モノづくり以外の分野では、専門家が尊敬されない風潮
- 図書館員に吹きつける強い向かい風 1 公務員バッシング
- 図書館員に吹きつける強い向かい風 2 検索の世俗化

⇒ ヒトを最高の商品として売り出す戦略の確立へ

## 2. PR 戦略と実践について

### a. 利用の促進

- 関心の領域を細分化する = ターゲットを絞り込む
- プラス面を強調し、マイナス面は但し書きとする

### b. 予算の獲得

- 自治体の施策と一致させる
- 効果（成果）を強調する

### c. クレームの抑制

- クレマーこそが絶好の PR ターゲットである
- できることには「感謝」、できないことには「陳謝」する

### d. サポーター（ファン）の拡大

- ヒトを前面に出す 1 おしゃれでカッコいいイメージを構築する
- ヒトを前面に出す 2 得意分野（専門領域）を宣伝する

## 3. 事例研究

## 4. まとめ